



本師源空明仏教

機愍善惡凡夫人

真宗教証興片州

選択本願弘惠世

お正信偈を読み進み、七高僧も最後の法然上人（本師源空）のところまでやってきました。淨土真宗の開祖親鸞聖人は九才で得度出家され、比叡山で二十年間仏道修行を続けてこれらましたが、どうしても“生死出ずべき道”は山にこもつた修行の中には見いだせず、暗闇の中에서도まい続け、山での仏道に限界を強く強く感じておられました。そこに突然、これまで学び、修めた仏道とは全く違った新しい道を押し示しておられた。親鸞聖人はそれまで積み上げてきた仏道の歩みをすべてかなぐり捨て、二十九才までの命をいつたん閉じて、法然上人の教えに学び、念佛一つの道を選び取って新しい命として人生を歩みだされたのです。親鸞にとつてのクロスロード（人生の分かれ道）はこの法然上との出会いのところにありました。十字路に立ち右に行くのか左に行くのか。多くの修行僧たちが比叡山で修業し、自身も二十年間歩んできた右の道を歩み続けるのか、法然上人が説かれる、今まで聞いたこともない念佛一つの左の道を進むのかという厳しい選択があったのです。この“選択”こそが、もともと法然上人の教学の中で最も要になる思想であり、上人の主著は「選択本願念佛集（せんじやくほんがんねんぶつしゅう）」と名付けられています。法然上人は八万四千の法門といわれるお釈迦様の教えの中から、選択を重ね、選び抜いて専



“選び”ということは一人一人の人生にとって、どのような時代の中でも大切なことです。近年豊かな物と豊かな情報の中で、欲しい物、欲しい情報をつぎつぎに選び取っていくことがますます可能になり、そのことが社会の豊かさのバロメーターになつてゐるようです。人間の欲することはあらゆることが人間の力で可能となる、人間中心主義が当然のこととして定着しています。しかし今、地震、津波、豪雨そして新型コロナウイルスという脅威にさらされる中で、人の知恵で作り上げたビルも堤防も健康も、良いものをいくらでも選び取つて積み上げてみても、所詮「砂上の楼閣」にすぎないものであることに気づきかけているようです。

半年もすれば人類は新しいワクチンを開発し、科学の勝利を宣言できるかもしれません。しかしそれでも私自身の老いと死は、決して遠くるものではありません。欲に任せ、あれもこれもと選び取ろうとする人生を転換し、念佛一つを選び取り「心を弘誓の仏地に樹てる（たてる）」淨土真宗のみ教えが、今あらためて現代社会の中で必要となつてきています。（文責 住職）

修念佛にたどり着かされました。お釈迦様の説かれた多くの言葉、多くの実践を学ぶ中で、“あれもこれも”と選び取るのではなく、“あがこれが”と厳しく選び棄てていく中で、最後に五濁悪世、煩惱具足の凡夫の仏道として、専修念佛・お念佛一つの道を選び取られたのです。この厳しい選び棄て、そして選び取られた法然上人の洗練された教えを、親鸞聖人もただただ選び取られていました。

四月から小学校に入学される皆さん、入学おめでとうございます。皆さんが健やかに成長されますことを、みんなで応援しています。頑張ってください。

入学おめでとう

四月から小学校に入学される皆さん、入学おめでとうございます。皆さんが健やかに成長されますことを、みんなで応援しています。頑張ってください。

四日（土）	出石組 組会（文書審議）
一日（土）	勝林寺 観桜会
二日（日）	古田博己宅 一周忌
三日（火）	兵庫教区 教区会
四日（水）	出石組総代会 総会（専福寺）
五日（木）	石田和俊宅 三回忌
六日（金）	佐藤義典宅 二回忌
七日（土）	佐藤義典宅 二回忌
八日（日）	兼井康邦宅 二回忌
九日（月）	出石組総代会 総会（専福寺）
十日（火）	佐藤義典宅 二回忌
十一日（水）	佐藤義典宅 二回忌
十二日（木）	佐藤義典宅 二回忌
十三日（金）	佐藤義典宅 二回忌
十四日（土）	佐藤義典宅 二回忌
十五日（日）	佐藤義典宅 二回忌
十六日（月）	佐藤義典宅 二回忌
十七日（火）	佐藤義典宅 二回忌
十八日（水）	佐藤義典宅 二回忌
十九日（木）	佐藤義典宅 二回忌
二十日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（日）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（水）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（土）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（火）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（金）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（月）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（木）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（日）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（水）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（土）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（火）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（金）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（月）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（木）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（日）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（水）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（土）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（火）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（金）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（月）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（木）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（日）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（水）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿四日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿五日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿六日（日）	佐藤義典宅 二回忌
廿七日（月）	佐藤義典宅 二回忌
廿八日（火）	佐藤義典宅 二回忌
廿九日（水）	佐藤義典宅 二回忌
三十日（木）	佐藤義典宅 二回忌
廿一日（金）	佐藤義典宅 二回忌
廿二日（土）	佐藤義典宅 二回忌
廿三日	

仏に救われるということ

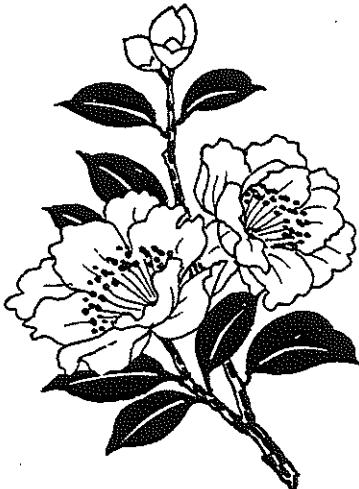
真宗の教えとは、お念佛を申して、仏さまに救われていくということですが、その仏に救われるとは、どういうことを意味するのでしょうかか。

すくう」という」との意味は、いろいろあります。金魚をすくう、みそ汁をすくうといふ場合の「すくう」とは、「掬う」という字を書きますが、この漢字は「手へん」に「菊(あづめる)」という字を書きます。菊という字はそこから生まれたもので、菊の花は、すべて花弁が、中央に向かって集まっているところから、そのようにあらわしたわけで、掬うとは、集めるということを意味します。

まだ「救急」といふ字をあらがふことは、
は、「へん」(偏)の「求」は、皮袋に水を入れ
た形をあらわして、その水が「ほれない」ようにな
り、「へん」(偏)の「女」は、人間の動作を意味して、
しつかりと止める「う」とを意味し、その「つ
くり」(旁)の「女」は、人間の動作を意味して、
しつかりと止めることをあらわします。救急車
とは、ケガや病気が、それ以上に進行しないよ
うに、しつかりと止めて、急いで病院に運ぶ車
のことです。

また「援う」という字もありますが、これも
「手へん」で旁の「爰」とは、もともとは「出番」
のように書いて、喧嘩をしている双方の間に入
って、手を広げて止める形を表した字で、争い
ごとを解決することを意味します。

また「済う」という字もあります。」の字の旁の齊とは、正しくは、齊と書きますが、この字は、中国の古い辞典によりますと、娘が嫁入りするときに、髪を美しく整え、いろいろな髪で、飾った後姿をあらわしたものだそうです。だからこの齊は、「ととのえる」と訓みます。いまはそれに「さんずい」がついていますから、水を整える」と、すなわち、水に沈む」となく、



水を渡つていく」とをあらわします。仏教では、仏さまに救われる」とを「済度」にあざかるといいますが、その「度」も、「さんぎー」をつけたら、水を渡つていく」とですが、「さんぎー」がない時には、道をわたる、谷をわたることをいいます。かくして、この済度とは、よく「わたくつていく」とで、仏さまのお救いのことをいいます。

すなわち、仏に救われるということは、自分の人生において、いかなる苦難にあい、どれほど深い悲しみにおそれようとも、その苦しみ、悲しみを、よく受け止め、それをよく超え渡つていけるような人間に、しっかりとお育ていただくということをいうのです。

この「済度」とは、インドの經典の言葉にかえしますと、「ウシタラナ」といいますが、それは「横切る」「超える」ということをあらわします。だから真宗において、阿弥陀仏のお救いをいただくということは、それぞれの人生のきびしい山や谷を、力強く超えていく、渡つていくということを意味するわけです。

真宗では、死んでいく」とを「往生」といいますが、往生とは、往つて新しく生まれること、新しい仏の人生を生きていく」といふことです。このこともまた、死を渡つていく」とをいつわけで、往生とは終わりを意味するのではなく、新しく仏の「いのち」をいただいたものが、仏の人生をスタートすることをいうわけです。

お念仏といふのは

つまり自分が自分に対話する道

今月の言葉は、明治から昭和にかけて活躍された真宗大谷派の僧侶、曾我量深師が述べられたものです。

すなわち、仏に救われるということは、自分の人生において、いかなる苦難にあい、どれほど深い悲しみにおそれようとも、その苦しみ、悲しみを、よく受け止め、それをよく超え渡つていけるような人間に、しっかりとお育ていただくということをいうのです。

この「済度」とは、インドの經典の言葉にかえしますと、「ウシタラナ」といいます。それは「横切る」「超える」ということをあらわします。だから真宗において、阿弥陀仏のお救いをいたたくといふことは、それぞれの人生のきびしい山や谷を、力強く超えていく、渡っていくということを意味するわけです。

真宗では、死んでいく」とを「往生」といいますが、往生とは、往つて新しく生まれること、新しい仏の人生を生きていく」といふことです。このことと、死を渡つていく」とをいふわけでも、往生とは終わりを意味するのではなく、新しく仏の「いのち」をいただいたものが、仏の人生をスタートすることをいうわけです。

(信楽峻磨遺稿法語集より引用)

本当の喜びは生まれません。仏法はお釈迦様が説かれた教えですが、それは、のがれられない生老病死という苦しみ、悲しみ、悩みを、乗り越えた生き方をするという目的をもつていて、乗り越えるということは、悲しみや苦しみを消し去ることでもなく、克服することでもあります。悲しみは悲しみのままに、苦しみは苦せん。悲しみは悲しみのままに受け止めていく、しかし、その一ひとつのご縁が私を育ててくださるのだ、と受け止めることが「転じる」ということです。さらにまた、その方々の導きは、すべて阿弥陀さまのおはたらきがあつてのことだと味わうと、本願に誓われた他力念佛の道を歩む生き方となってくるのです。(「月々のことば」より抜粋)

防することだけはできます。その小さな力が集まつてやがて大きな力となり、敵を倒せる日が来るはずです。その日まで、先は長そうですが、ちょっと頑張りましょう。制限を守つてもできることはまだまだたくさんあります。

さて、「ご報告です。皆さんにずっと応援していただきておりました長女希里と次男入海がそれぞれの大学を無事に卒業することができました。四月からは、それぞれ社会人、大学院生になります。この時期ですので、卒業式も入社式も入学式もなく、不安いっぱいの門出ではありますが、その代わりに得た「時間」で次のステップへの力をじんわりとためてほしいと思います。久しぶりの四人家族です。(文責 坊守)

どすん

新しい年が始まりワクワクする気持ち、雪が少なく暖かい日が続きウキウキする気持ち、そんな気持ちを抱いた日々もあったのに、今は不安だらけの毎日です。ご門徒の皆さん、有縁の皆さんお変わりなくお過ごしですか。会員さんでいっぱいにして、作品展やアトラクションで楽しみ、ご飯を食べながらいっぱいおしゃべりをしたいと思っていた仏婦総会は中止せざる負えなくなり、豪華賞品をねらいつ内心住職だけには負けたくないと闘志を燃やしていりますますそれらがいとおしくなり、悲しく、つらい気持ちになってしまいます。しかし、嘆いたり不満を言つたりしている場合ではありません。今回ばかりは「私には関係ない」といつていられる人は誰一人いません。未来を描くなら、今この世に生きている人全員で立ち向かって、ウイルスという敵を倒さなければなりません。敵を倒すと言つても、私には薬を開発することはできないし、苦しんでいる人を助けることもできません。でも、自分がかからぬよう予防することだけはできます。その小さな力が集まつてやがて大きな力となり、敵を倒せる日が来るはずです。その日まで、先は長そうですが、ちょっと頑張りましょう。制限を守つてもできることはまだまだたくさんあります。

さて、ご報告です。皆さんにずっと応援していただきおりました長女希里と次男入海がそれぞれの大学を無事に卒業することができます。四月からは、それぞれ社会人、大学院生になります。この時期ですので、卒業式も入社式も入学式もなく、不安いっぱいの門出ではあります。久しぶりの四人家族です。（文責 坊守）